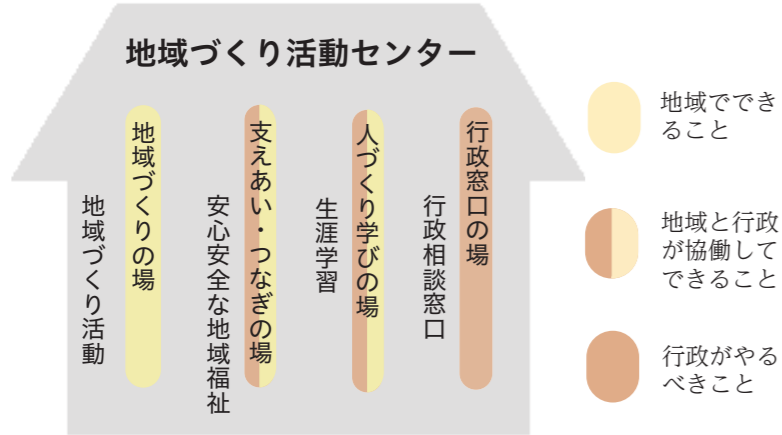




# 自分たちの地域を、自分たちの手で

住民の多様なニーズに対応し、地域ごとの個性を生かしたまちづくりを推進するために平成 23 年から「せいよ地域づくり交付金」事業を開始。この事業の基本理念は「自分たちの地域を、自分たちの手で」。市内を 27 の地域づくり組織に分けて、住民による自主・自立した地域づくりを支援しています。



令和5年には、各地域にある生涯学習の拠点であった公民館を市民と行政の協働の場とするために「地域づくり活動センター」に移行。地域づくり組織の運営や各種事業の企画などを行う「地域任用職員」を各地域づくり組織で雇用するなど、これまで以上に地域づくりを支援する体制を整えました。

## ▶地域づくり活動センターなどの人員

センター長	行政職員（会計年度任用職員） 地域づくり活動センターを総括する
センター主事	行政職員 窓口業務や地域づくり活動の助言を行う
一般事務員	行政職員（会計年度任用職員） 窓口業務などを行う
地域任用職員	地域づくり組織が雇用する職員 地域づくり組織から業務を受託して実施する団体の構成員

## ▶地域づくり活動センターの取り組み事例



小学生対象の通学合宿。センターから通学することで協調性などを磨く（写真上）。防災学習事業。各センターでさまざまな学習に取り組む（写真下）



地域づくり活動センターの整備に伴い行政機能も強化。センターと本庁をビデオ通話でつなぐ



時には地域の環境整備も。地域と一体になって事業を進めています



## 地域担当職員

西予市独自の地域づくりを支援する制度として、「地域担当職員」があります。地域づくり組織の要望などによって、一般職員が任命され、業務の一環として地域づくり組織を支援します。

令和7年度の地域担当職員は 100 人。会議での助言やイベント運営、事務処理の補助など、地域づくりを支えています。

地域づくり活動センターの業務はとにかく地域密着。子どもから高齢者までさまざまな人と関わります。異動してきた頃は、よそよそしかった子どもたちが、イベントなどで「一緒にやろう」と声をかけてくれるようになったのはうれしいですね。

私はこの多田地区で生まれ育ちました。春は桜、秋は紅葉と散策するだけで気持ちよく、何よりも人がゆるくつながっている居心地のいい場所です。これからも気をはらず、心が落ち着くような場所であり続けられるように、事業に取り組みたいと思います。

多田地域づくり活動センター

菊地 主任

平成 30 年度入庁



# 生まれ育った 地域のために



# やりたいことを カタチに

大和田地区は4つの地域で形成される場所で、文化もそれぞれ異なります。そんな地区で1つになれるものを取り組んだのが歌づくり。メロディも歌詞も歌声もみんなで一丸となって作った「大和田のうた」は地域のシンボル「希望の滝」などが入った大和田ならではのものになりました。イベントなどで歌う定番ソングです。



大和田のうた

今後は地域の子どもたちが都会の人と関わり、関係人口を増やすプロジェクトを考えています。センターはやりたいことをカタチにできる場所。前例どおりではなく一工夫を加えて楽しく仕事に取り組んでいきます。

大和田地域づくり活動センター

三瀬 係長

平成 21 年度入庁